



明日への歩み 希望の針

つくる

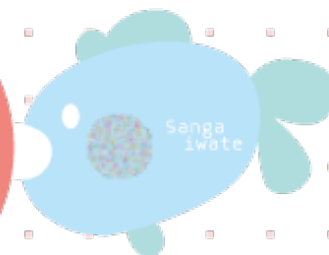
●仕事づくり

つどい

●生きがいづくり

つながる

●仲間づくり



東日本復興支援センター NPO法人

サंगा岩手

事業名

被災地における内職プロジェクト

—現地の雇用創出と
地域のコミュニティの構築を目指す—

事業概要

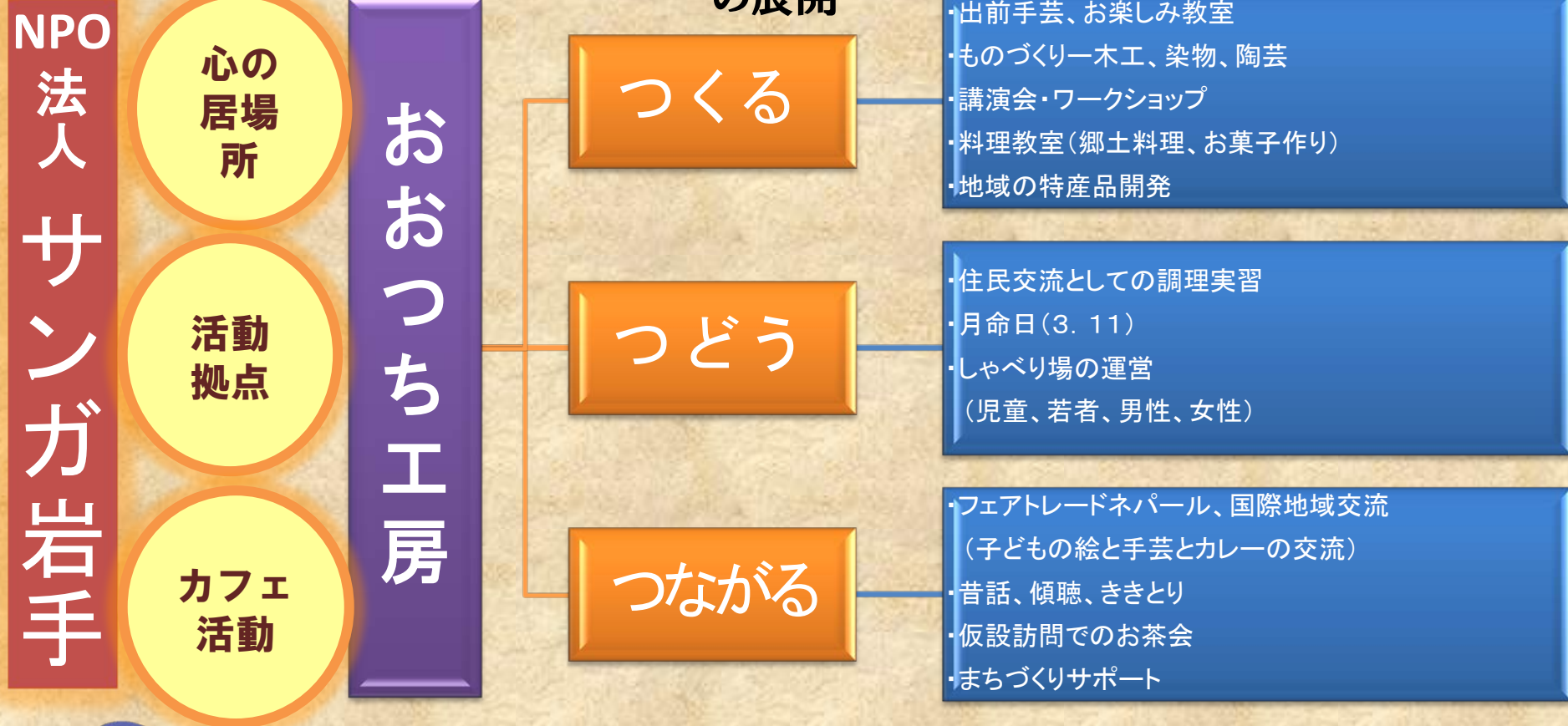
■大槌での手芸作品を全国に向けて発信し販売する。

■手芸工房の運営、手芸の制作、販売には被災地域の人を雇用し、仕事として手芸製作活動を行う事で被災地の復興、生活再建に繋げていく。

■手芸活動を行う中で手芸工房の場所を利用した住民交流会を開催し地域住民同士の情報交換、交流の場を設け人の集まる居場所づくりを通した被災地での新たなコミュニティ形成を目指す。

NPO法人サンガ岩手 支援活動概要

— 心のケア・傾聴ボランティア — 被災地・工房の流動的ニーズに対応した活動の展開



活動内容 ①

- 1 長期的な事業展開をするにあたって他団体との連携と密にし、活動の幅を広げる
- 2 現地の雇用創出に当たって手芸工房内でカフェを開設し人件費を捻出
- 3 手芸研修会の開催 週1回（講師を依頼）
- 4 組織運営スタッフ研修（事務研修、視察研修、他団体との交流）
- 5 企業と連携した内職プロジェクトの実施
- 6 内職スタッフの交流会を企画、実施
（被災者の相互の交流、情報交換）
- 7 内職スタッフを指導する専門指導員を配置する（各手芸工房に1名）

活動内容 ②



物づくり指導者育成



情報交換、住民交流



住民への活動の周知



企業と連携した物作り

活動内容 ③



サンガ岩手藍畑



伝統工芸品制作 藍染め・刺し子



防災視察・研修受け入れ



復興スタディーツアー実施

活動内容 ④



カフェ活動に向けた研修会の開催



手芸工房の備品整備

活動内容 ⑤

～ 定期的な情報発信 ～

～住民へのおおつち通信の発行～





<創刊号>

NPO法人 サンガ岩手

手づくり工房 おおつち通信



3月

H25年2/6発行

サンガ岩手は2月からNPO法人として活動していくことになりました。手作り工房おおつちの運営や各種研修会の開催などこれからも地域に根差した活動を行っていきます。手作り工房おおつちを仕事の場として、みなさんのつどいの場として利用して頂ければと思います。これからもよろしくお願いします。

NPO法人 サンガ岩手 理事長 吉田 律子

HPから全国へ情報発信

手芸工房おおつち通信の発行

成果と今後の課題

1.「人員」

- ・現地のパートスタッフを雇用したことで現地の住民に活動を周知することができた。
- ・大槌工房に人が常駐することで、いつ、誰が来ても利用することが出来る工房となった。
月に25日開設、月の平均利用人数は500名。
- ・物作りスタッフは大槌工房の開設に伴い確保することができたが今後も安定した雇用を継続していく事が課題である。
- ・中長期の活動を見据えた活動を展開する必要性がある。

成果と今後の課題

2.「財源」

- ・自主事業の手芸活動については企業との連携を行う事で大口の商品発注を受けることができた。
(ドンキホーテ、フェリッシモ、生協、イオン)
- ・手芸作品の品質向上、手芸指導者の育成としての研修会を行う事で、各仮設にある手芸サークルに一人指導者を置くことができた。
- ・物作りのみが先行し、住民同士の交流が少なくなってしまった。
サンガ岩手の「つくる、つどう、つながる」をスローガンに物づくりを通した心の交流を持てるよう、方向性を今後検討していく必要がある

成果と今後の課題

3.「居場所」

- 2012年7月に開設したサンガ岩手のおおつち工房は現在月曜日を除く月平均25日開設している。
- 物づくりだけではなく今後はカフェ活動、食品販売事業を計画している。
- 物づくりとしてのおおつち工房の活動は住民に浸透してきたので今後はさらに多くの住民に利用してもらえるようサロン活動、住民交流会活動を実施し、大槌の住民に開かれた工房となるよう運営していく。
- 現地でのニーズの聞き取り調査を定期的 to 実施していく

活動による地域社会への変化



● 新たな活動の展開
他のNPOとの連携

● 支援者と受益者の枠を
超えた住民同士の連携

● 人員確保による
組織の安定、信頼



これからの活動と展望

- 1 サンガ岩手の手芸工房が地域のサロンの役割を果たし、住民がつどい、繋がっていく場として地域に根差した活動を展開する。地域の方の心の拠り所となるような居場所を提供する。
- 2 「人と場」における初期投資を行い組織として人を育てるNPOを目指す。
- 3 地域福祉の拠点の場として高齢者が集まり、社会参加ができる活動を実施する。
- 4 手芸工房の運営、手芸の制作、販売、事務、など全て被災地域の人が雇用され仕事として手芸製作を行い被災地の復興、生活再建に繋げる。
- 5 正会員、賛助会員、寄付会員を全国的に呼び掛け安定した財源を確保することで本来の非営利事業を支援が必要とする住民に対して充分に提供する。
- 6 被災地域で活動する他のNPO団体と連携し、横のつながりを生かした運営を行う。

今後の具体的な活動



被災者の雇用創出に貢献する事業を確立する



活動の原点である地域再生や生活再建の基盤となる居場所づくり、コミュニティづくりを行う



地域住民が主体となり、現地のニーズに対応した長期的な生活支援を展開する

